

ワインパーティ方式で盛り上がる

静中・静高 関東同窓会 会報

静中・静高関東同窓会
会報 第72号
平成23年12月30日発行
編集人 村松 貴彦
(77期)



関東同窓会総会・懇親会盛大に実施

89期 新村 暢宏

平成二十三年度静中・静高関東同窓会総会・懇親会が七月十五日、新宿区市ヶ谷のホテル・グラ

ンドヒル市ヶ谷にて近年最多の百四十八名の同窓生が集い盛大に行われました。また、ご多用の中、静岡から副校長 乗松修司先生、本部同窓会長 荻野覚氏、並びに本部事務局長 三浦俊一先生に

来賓としてお越し戴きました。総会では、八牧会長の挨拶に引き続き、来賓の乗松修司副校長から静高生の近況についてお話があり、特に「今年の野球部は大いに期待できる。」

二年度事業報告・収支決算報告」「二十三年度事業計画・収支予算」等について審議され全会一致で了承されました。

懇親会は、荻野本部同窓会会長の挨拶、最年長の57期 岩井平一郎氏の乾杯で始まり、期毎のテーブルで記念撮影をするなど終始和やかな雰囲気では進みました。

今回の幹事期の89期並びに次期幹事90期の紹介及び引き継ぎを行った後、応援指導部OBの89期牧野尚夫氏と富士川町からこの日のために駆け参じて戴

きました同部OBで同じく89期の森佑司氏の指導で校歌及び逍遙歌を全員で声高らかに歌い最高潮に盛り上がりました。最後に元関東同窓会長 六十期の上杉重吉氏の乾杯の音頭で来年の再会を期して本会を締めくくりました。

総会全体風景



ソムリエの林氏の講演



ソムリエの林氏が講演

本年度の講演は、渋谷区代官山をはじめ都内にイタリアレストランを展開しているイタリー・ジャパン代表取締役CEOでイタリアワインのソムリエ資格を持ち、イタリアに通算十三年の在住経験を持つ89期の林茂氏を講師にお招きして、「イタリアワインを楽しむ（イタリアの人生の楽しみ方を学ぶ）」という演題で講演をして戴きました。講演は、林氏提供のイタリア直送の赤・白ワイン、本場のチーズなどを試飲・試食しながら「イタリアワインの解説」にはじまり、「イタリア文化」さらには「食と健康」まで幅広いテーマについてお話をされ、同氏の軽妙なスピーチと美味しいワインでイタリア気分を大いに満喫することが出来ました。



89期応援指導部森祐司君と幹事の面々

世界で活躍する岳南健児 (第2回)

「パジェロ」開発の静岡先輩からの指示で販売に奔走

前三菱自動車工業社長 多賀谷 秀保(82期)

日本の自動車産業の海外進出に尽力した多賀谷秀保・前三菱自動車工業社長のモットーは「外に目を向け半歩先を見る」。

同氏に、長いビジネスマン生活を振り返るとともに、若い世代へのアドバイスなどを語ってもらった。

(聞き手・八牧浩行)

「外に目を向け

半歩先を見る」がモットー

― 入社当初は大変だったようですね。

三菱自動車が三菱重工業から独立した年の第一期生で百五十人入社しました。伝統的な製造会社「三菱重工業」の古いしきたりが多く、びっくりました。売るという行為にあまり価値を置いておらず、消費者を重視するという感覚がなかったですね。



多賀谷 秀保
前三菱自動車社長

もの不足の時代にはよかったかもしれませんが、潤沢になってくるとこういう会社は行き詰まると考えました。そこで、同期の仲間を集め「会社を変えよう」を合言葉に「有志の会」を発足しました。十年続ければ結構な集団になり、会社を動かせると考えました。

― 三菱重工業には、ものづくりのプライドがあったんでしょうね。無骨な車づくりのように思いましたが、コルトなどいい製品もありましたね。

同期入社のうち本社採用は二十人、我々は団結しなくてはだめだと思い、酒を一緒に飲める人をどんどん増やしました。論文「多国籍企業への道」を執筆し、国内より海外に力を注ぎ、そのための人材を育てる必要がある、と訴えました。

― その後、海外進出への推進役となったわけですね。一九七〇年代は円高、石油ショックなどで環境が悪化、輸出企業は壊滅すると言われましたね。

当時は日本のメーカーはまだ

満足に輸出できておらず海外依存度が少なかった。面倒で利益が大きくない輸出なんかやめてくれと言うのが工場の総意でした。それへの説得が大変だった。

僕は欧州駐在と米国駐在を経験していますが、欧州と米国は自動車に対する考え方が違っています。欧州では車は「マシン」で性能重視ですが、米国では「おもちゃ」。デザインや内装、飾りが大切で、豪華でまっすぐ走ればいいという考え方でした。米国では日本車は小型車という「隙間」に入ることができましたが、性能重視の欧州ではまともにぶつかりました。

― 難攻不落の欧州への進出に成功したのですね。

うちの技術屋は欧州に進出した時、「技術が評価された」とすごく喜び、社内で「輸出部門」が認められるようになりました。

― 私は一九八〇年から八五年までロンドンに駐在しましたが、三菱のギャランやランサーなどはデザイン的にも非常に人気が高かったと記憶しています。自動車に限らず日本の産業界がこぞって世界に進出する時代でした。欧州はベンツ、フォルクス

ワーゲン、BMW、ルノーなど有力車が多かったから苦勞もあつたでしょうね？

僕は七五年に本社海外部門、八二年から八六年にオランダの欧州本部で輸出を担当しました。欧州への輸出一号車はブランドのマークも名前も決まっていなかった。「コルト」「ミツビシ」などバラバラで、顧客からレックスで「ブランドはどっちだ」と質問が来たほどでした。欧州は当初儲けなかったが、二十年たって利益が出ました。米国の自動車メーカーは全くドメスティックです

― 米国は大いなる田舎ですね。あんな大きな車を走らす道路は米国以外にはほとんどない。三菱はクライスラーと資本提携していましたが、ク社は輸出実務を知らなかった。米国内の需要が大きかったから。GM、フォードもそう。ビッグ3はオペルやボクソールなど欧州メーカーを買収しました。欧州フォードが三菱のディーゼルエンジンを欲しいと言ってきたので交渉に行ったら、米国フォードとは交流が三十年もないと言っていたので驚きました。米国って完全にドメスティックな国なんですよ。

——TPP（アジア太平洋経済連携）など世界のグローバル化に米国は関心を持ち始めているようですが。

グローバルゼーションなんて米国のためにあるようなものですよ。アメリカナイゼーションです。

——世界を熟知している人が言うと言力がありますね。米国は覇権国家でいつまでもいたいと思っっているようです。当時、日本は製造業も金融も破竹の勢いでしたね。そのころ私はサッカー首相（当時）にインタビューしたことがあります。日本の経営とジャパン・パワーに学びたいと言って日産やソニーなどの工場を誘致、地元で地域運動会まで始めました。三菱はパジェロなどユニークなブランド車を作りましたね。

パジェロを開発したのは静高の先輩、近藤昭さん（昭和三十八年三菱重工入社、元商品開発課長＝故人）です。

ある日、先輩から直々に「ある程度売れるめどが立たないと発売が認められない。何とか450台ぐらい欧州で売れるめどを付けてくれ」と頼まれました。「こんな車売れない」と多くの

幹部から言われたらしい。ところが、売り出したら月に二〇〇台も売れた。静高の大先輩なので力を入れて販売しました。パジェロはタキシードを着て似合うオフロード車として人気を博しました。

——いい話ですね。パジェロのミニカーまで出来、一世を風靡しましたね。

素晴らしいコンセプトで、今でも人気車です。

——米国での部長時代は「団決力」を重視したとか

何事もモチベーションが大事だと思えます。米国は日本よりはるかに上位下達。下は絶対抵抗しない。部下が自分より年上で、始めのうち戸惑ったが、自分は一時的な在籍、部下は一生なので部下の出世の手助けをしようと考えました。話し合える人と見られ、団結力が増し、業績も上がりました。

——帰国してから

マーケティング戦略室を任せられたが、わが社はマーケティングが不在だった。パジェロがたまたま当たったが、作れば売れる時代ではなくなった。マー

ケティングの重要な役割は、売ることさることながら、ブランド価値を上げることだと思います。

——バブルが崩壊し金融崩壊で大変でした。銀行や生保が潰れ、東京など再編合併で平成恐慌だったし、製造業はどうでしたか？

車にも前兆があり、合従連衡や生き残り策の時代。社長に呼ばれてどこをやるか考えよと。ベンツと資本提携し、どのようにやっていくかも任せました。

「半歩先を見る」の気持ちを持って対応しました。西側諸国に拠点はあったが、東側にはなかった。米欧以外の地域が牽引車になると読み積極的に進出、成功しました。

——三菱の事故が起きたり救世主として社長に就任し、うまくリカバリーしましたね。電気自動車「アイミーブ」も早くから手掛けましたね。

なんとかやれたと思います。

——仕事に対する考え方などをお聞かせいただきたい。

与えられた仕事をやっていけばいい、と言うのはだめ。自分

のところに戻ってくる仕事は、どのような経緯で自分の所に回ってきたか？自分が処理した仕事は、その後どうなったか。役に立ったか？不都合は生じなかったか。自分で確かめることが大切です。

——静高生や若いビジネスマンの後輩に言いたいことは？

最近の外に向かって挑戦する若者が減っているような気がし

ます。留学や海外赴任も積極的ではないですね。僕も学生時代に2回欧州に行きとても勉強になりました。

——静高時代の思い出は？

清水から電車で通いました。担任の太鼓矢先生に人の道など教えられた。個人的に西川先生に数学を習ったことも思い出深いです。

平成二十四年度関東同窓会総会・懇親会 七月六日にプレスセンターで開催！

先月の本部同窓会総会の熱気がまだ残っていますが、平成24年度の関東同窓会・懇親会の日時と場所が決まりましたので、案内させていただきます。

日時：平成24年7月6日（金）

午後六時より

場所：日本プレスセンタービル
日本記者クラブ十階大ホール
東京都千代田区内幸町2・

2・1

幹事 90期 深沢英昭（理事）

（地下鉄・内幸町、霞が関、虎ノ門各駅から徒歩二～五分）
JR新橋駅から徒歩十分）

式次第：総会、講演会、懇親会

多くの同窓会員の皆様、また就職を控えた学生OBの方々にも多数参集いただけますようお願い申し上げます。講演会の内容等、随時ホームページ、会報で掲示させていただきます。

静高甲子園出場

関東からも熱い声援
「岳東健児」の観戦

八月七日、名門公立高校同士の静高・習志野高校戦は第1試合で八時プレーボール。最早の新幹線でも間に合わないの、JR深夜バスで駆けつけ、何とか間に合いました。ところが球場のチケット売り場は長蛇の列。熱烈なファンが多いのに驚きました。3塁側アルプススタンドは静高ファンで埋め尽くされていました。

関東同窓会からも大勢が陣取



静高ファンで埋め尽くされた三塁側アルプススタンド

り、決選を前にピーンと張り詰めた雰囲気。前日、新幹線で大阪入りしてホテルに泊まり、満を持して臨んだ熱烈なOB、OGも多かったようです。

静岡からは、バスだけで四十台が仕立てられたとのこと。対戦相手の習志野高校も千葉から四十台が甲子園を目指したそうです。(ある静岡関東同窓会メンバーは住居の最寄駅から出発した習志野応援団のバスに

「便利だと思って」つい乗ってしまい、とても居心地が悪かったようです)

多くの旧友、先輩、後輩と再会しました。関西同窓会メンバーはお揃いのTシャツを着て出迎えてくれました。静岡からは、浅羽校長先生、荻野本部同窓会長はじめ数千人が声を枯らして応援していました。関東同窓会からも大勢詰めかけ、スタンドは時ならぬ「静高祭り」状態。久しぶりで再会した同窓生たちが再会を喜び合う光景が随所で見られました。何年かに一度甲子園のスタンドで再会できる静高卒業生は幸せです(毎年でしたらもっといいのですが...)。

静高生徒応援団、相変わらず元気で頼もしい限り。特に女子生徒が目立ちましたね。「校歌斉唱」では数十年前が想い出されて思わずホロリとしました。

名物私設応援団長の82期・増井君も、歴史を感じさせるボロボロの軍艦旗を背中に巻いて(旗竿に付けて振るのを係員に禁止されてしまったので)、「今日は野球を見に来たんじゃないぞ!応援に来たんだ!」と最初から高いボルテージ。

6回に同点に追いついた時は全員ハイタッチで「行ける!」

静中・静高125周年記念誌

を販売します。

明治11年の静中の時代より平成14年の静高までの歴史が記載されています。

I・II・III巻セットで初期販売価格は一万円でしたが三千円(送料無料)にて17部販売します。

申込みは、関東同窓会事務局まで。



静中静高誌 I ~ III

と思ったのですが…。結局、習志野高校に残念ながらあと一歩で敗れました。

でも、静高はレギュラーに二年生が四人もいるので、来年度夏の大会が楽しみです。

球場の玄関には歴代優勝旗が掲げられ、86年前の静中学校旗が誇らしげでした。

来年の選抜、夏と甲子園に向けて、さらに熱く応援しましょう。

※追伸 新人による秋の大会は、静岡三位校として東海四県大会に臨んだが、一回戦で三重県二位の菰野高校に破れ、来春の甲子園出場はならなかった。

コンビニによる
会費徴収方式の廃止

平成二十三年九月一日からコンビニでは会費は振り込めません。郵便局からの振り込み方式だけになりましたので、お間違えのないように。過去に同封しましたコンビニ振り込み用紙も使用できませんので使用しないで下さい。

(事務局)

静高静中関東同窓会

「異業種交流会」発足

副会長 垣生 尚敬 (78期)

1月27日に第一回会合、多くの方の参加をお待ちします

関東同窓会のメンバーも若返りつつあり、同窓会運営も若い世代が中心になると同時に女性会員も増加しており、時代に即した同窓会が求められ始めているように感じます。

今年八月八日の静岡新聞朝刊「インタビュー」欄に八牧会長の「静高関東同窓会を異業種交流会のような有意義な場にもしたい」との発言が掲載されました。これを読んだ会員からぜひ実行してほしい旨の要望があり、実行委員会を発足させ検討いたしました。

初めは試行錯誤になりますが、ともかく硬い事は抜きで走り出してみようとの結論になり、下記内容で第一回交流会を実施する運びとなりました。暫定ではありますが、春夏秋冬の年四回を目標に開催を予定しております。現役世代、リタイア世代を問わず、諸分野で幅広く活動している同窓生同士が自由に交流する良い機会になると思います。閉塞感が漂う厳しい時代だからこそ、様々な出会いを通じてネッ

トワークやノウハウを共有する有意義な場となるよう努める方針です。

会場は40名程度の部屋（立食形式）を用意し、自由参加を原則としております。運営上ご出席の人数把握が必要ですので参加ご希望の方は同窓会事務局又は実行委員まで、①氏名②卒業期③所属の三点をご連絡願います（締め切りは平成24年1月20日とさせていただきます）。なお、関東同窓会ホームページ（下記URL）でも逐次ご案内いたしますのでご覧下さい。
<http://shizuko-kanto.com/>

開催日…平成24年1月27日（金）

19時～21時

会場…日本記者クラブ9階大会議室

東京都千代田区内幸町2-2-1

1

日本プレスセンタービル

電話…03-3503-2721

会の名称…静高関東同窓会異業種交流会

会費…¥4,000

連絡先…静高関東同窓会事務局

メール…nogata.houritu@comet.ocn.ne.jp

電話…090-3803-4054

78期 垣生

080-3010-8724

89期 笠松

「江の島会」報告

71期 浦田 彰

毎年恒例の静中・静高「江の島会」が江の島・参道脇の恵比寿屋で催されました。参加された同窓生は三十三名。加えていつものように、ゲストとして母校から朝羽校長、荻野同窓会長、それに三浦同窓会事務局長のお三方が参加されました。いつものように、簡単な黒田会長による会の運営報告が済めば別席に移って懇親会。膝を交え、時を忘れて談論風発。時至っても語り足りない面々は、いつものように二次会に流れ、夕暮れともなれば恵比寿屋の大広間は何事もなく静かになったというしだいです。

今年もいつものように始まり終わりました。「江の島会」は今年で六十三回です。一年一度の開催で六十三年、持続はチカラなりです。会の発祥の源淵はもはや伝説の彼方ですが、ここまで続いてきたチカラの基は年々濟々人は変われども、いつものように、いつものように、です。

「江の島会」の愉しさと面白さを一言で表す「家族的」に尽きるように思います。同窓会総

会のように大人数で多少儀式ばった会ではなく、卒業期を越えたもの同士がグラスや徳利を仲に、膝を交えてとことん語り合う。

「おお、きみの爺様はおれの親父と同期か、…」「へえ、貴方はテニスクラブの先輩ですか…」などなど、思うがけない交友も生まれています。いつものことです。

さて、いつものことのように、が「江の島会」のキーワードですが、時は

移り、人は変わるのも世の常です。九月第一日曜日とされていた開催日を地球灼熱化に即応して九月末か十月としました。いつものように立党の精神だが固執することはない、という意見もあります。

黒田会長も変えるべきは変えたい

といいます。どんなじ変えても、かわらないのが同窓の絆です。皆さん建設的なご意見をお待ちします。

「江の島会」事務局

黒田 秀幸 (67期)

☎ 045-261-5181

〒 232-0023

横浜市南区白妙1-1



コブつき富士の ホームページ

87期 石川 嘉和

静岡高関東同窓会のホームページサイトを立ち上げたのが二〇〇〇年の秋。同窓会理事会で提案したところ異議なく了承していただきました。ただ1点注文がついたのがトップページに富士のイラスト。「この富士には宝永山がない」確かに静岡から毎日見慣れた富士は右肩に宝永山のコブがある。そこが関東から見ると決定的に違うところ。懐しいコブつき富士に修正しアップロードしました。

それ以来10年余。その間にネットを使ったコミュニケーションは、ホームページからブログ、ツイッター、フェイスブック、と変遷を続けています。ホームペー

静岡・静岡高関東同窓会

ジは過去のものと
いう声も聞かれる時代になってきました。しかしながらその中で、幅広い年齢層に使われているという点で

ホームページに勝るものがないことも確か。同窓会の情報伝達の手段として現段階では有効なメディアであると考えています。

同窓会ホームページの位置づけは会報の補完が主な役割です。まず第一に年2回の会報発行の間を埋める、即時性を活かしたホットな情報の提供。第二に紙では表現しにくい情報（色、音など）の伝達、第三には会報を受け取っていない同窓生とのコミュニケーションの窓口。

また、母校の状況などについては同窓会本部のホームページに詳しく掲載されているので「関東同窓会」サイトとしては、関東在住の同窓生の動向を伝えることも役割の一つです。ウィキペディアに載るようなメジャーな同窓生はもとより、知る人ぞ知るその道の達人、ユニークな活動を続けている人、などの情報をお伝えしています。

そのほか異業種交流のきっかけとなるような情報も提供しています。関東同窓会を経由して内外部のコミュニケーションに輪が広がっていくのも開かれた同窓会活動の一環として意味深いことと考えられます。

今年は独自ドメインも取得しました。ぜひこのアドレス (<http://shizuko-kanto.com>) にアクセスしてみてください。

法律豆知識

「ハーグ条約」をご存知ですか。この条約は国際結婚をした夫と妻が色々な事情から別居したり、離婚したりした際に二人の間に生まれた子供を親の一方が他方の親の同意なしにそれまで生活していた国から外国に連れ出す問題に対処するために、ハーグ国際私法会議において採択された条約です。採択は一九八〇年で約三〇年前のことです。

この条約は南北アメリカ及びヨーロッパ諸国を中心に84カ国が締結しています。しかしアジアでは少なく、タイ、シンガポールなど4カ国が締結しているに過ぎません。ただ現在韓国、インド、フィリピンが締結を検討していると聞いています。

そこで条約の内容ですが、一方の親が共同の監護の権利の範囲を越えて子供を移動させたり、留置したりした場合、原則として子供が元々生活していた国に速やかに返還しなければならぬと規定しています。そしてこれを実現するために条約締結国間での協力について定めています。

また子供と離れて外国に住む親が子供と面会することが出来るように締約国間でどのように協力すべきかについても定められています。

もう少し条約の内容を説明し

ますと、この条約はどちらの親が監護養育に当たるのが適切かということとを審理し決める前に、とにかくこれまで生活していた国に子供を還すべきと定めています。この考え方は子供をそれまで生活してきた環境や親の一方から切り離すこと自体が子供の利益に反し、どちらの親とどの国で生活するのが子供の利益に適するかは一応ペンディングの状態にしておいて、ともかく一度子供を元の国に戻した上で、元の国の裁判所が判断すべきであるとの考えに基づくものです。

無論何が何でも元に戻すべしと規定しているのではなく、条約上一定の返還の例外事由が定められています。例えば元へ戻した場合子供への虐待が予想される場合とか、既に一年以上経過しており子供が新しい環境に馴染んでいる場合、また子供に判断させても良いような年齢に達しており子供が元の国に返還されることに異議を述べている場合等です。

しかし以上のような例外を除いて大抵の場合強制的に子供を元の国に戻すという処置は従来日本の法的扱いや慣行とはかけ離れた扱いであり、日本人にとっては違和感があると言わざるを得ません。

例えば実際に条約締結国間で起こった問題ですが、本条約に

基づいて子供が元の国に返還された後に誰も子供を監護せず、結局子供が施設に入れられるケースが発生したのです。この件は子供の福祉に適うとされてその後返還を命じられた親の訴えにより、子供は返還を命じられた親の元に再度返還されています。この例から分かるように、本条約がどちらが子供にとって良い環境かという「子供の福祉」を考慮することなく機械的に子供を元の国に戻すことによってかえって子供の福祉に悖る不合理が生ずることがあるのです。

その他に国際結婚した夫婦が離婚した場合、その間の子供は本条約によって当該国から出られなくなるのに対し、当該国で外国人である親は離婚によって在留資格を失うため国外退去になり、親子が引き離されてしまうという場合や、同じく離婚した場合に、子供の在留国に親権者たる親が在留を強いられる結果、十分な経済活動ができず結局経済的な不利益を被る場合等の不合理も見逃しえないことと

言われています。さて日本は現在まで本条約を締結するに至っていません。欧米諸国のほとんどの国が加盟している本条約に未だ非加盟であるのは日本としてそれなりの理由があるからです。詳しくご紹介する機会があると思います

ますが、本稿では以下のことに触れるだけにしておきたいと思っています。

本条約には先ず上記のような場合を始めその他にも種々の不合理があり、また日本国内における子連れ別居に関する法律制度及び実務慣行と大きく異なり、直ちに受け入れがたいと感じる人が多いと思われます。つまりは欧米とは親権付与に関する調停の制度のあり方やひいては親権についての価値観の違いがあるからです。

日本ではこれまで欧米と違って国際結婚の数も少なく、国内では親権付与に関する審理は調停手続きの中で行われそこで親権者や監理権者を決定していますので、子供を無条件に元の場所に戻してから親権に関する実質審理に入るより、直ちに実質審理を行って決定する方が解決が早いと考えられているからです。

現在諸外国から日本の本条約締結の遅れについて厳しく指摘を受けており、日本としてもいずれ本条約に加盟することにならざるを得ないと考えられますが、本年五月二十日菅内閣のとき条約締結を前提とした国内法の骨子案を閣議決定し、国会での承認の日程が上がっています。以上簡単ですがハーグ条約についてご紹介させて頂きました。

なでしこジャパンと 富士山

64期 杉本 哲

我々が小学校へ入学したのは昭和十二年の春で、入学後四ヵ月後に支那事変が勃発した。

そして四年生の時が皇紀二千六百年、当時卓越した性能を誇る零戦が登場した年である。

その翌年五年生の十二月八日に太平洋戦争が始まった。朝礼をしないですぐ全校生徒が浅間山に参拝、武運長久を祈った。

静岡中学に入学して二年生になったころ、戦況は厳しくなってきた。余儀なく戦場へ赴く先生の朝礼での別れの挨拶、工場への動員した上級生の空いた教室には兵隊さんが入り兵舎となった。

我々下級生は農家のお手伝いのため全員農協まで行き、ここで各農家に分かれて、鋤、マンガリを使って田畑の耕作、時として牛に鞭して田の土返しをすることもあった。

二年生の後半から三年生にかけて住友重工の研修工場で働くことになった。タガネ打ち、ヤスリ掛けの訓練から始まって、それぞれの職場に分かれた。

小生は静岡市北部の自宅から

東海道線の踏み切りを渡ってさらに南へ行った所にあるこの工場まで一時間近く歩いた。戦闘帽を被り、ゲートルを足に巻き、靴がないので下駄履き姿、腹は何時もほとんど空だった。下駄の歯も磨り減ってくると鼻緒が地面に当たって擦れて切れてしまい、途中裸足で歩いたこともあった。

一台の旋盤に三人が交代で作業するので順番でない時はだるいので坐っていると先生ならぬ職工に叱られた。

昭和二十年三月東京大空襲があり、六月十九日にはわが静岡に百四十機の米爆撃機B-二九の空爆を受け、全市の七割が焼失、死者約二千人、重軽傷者一万人が犠牲になった。翌日街に出て中町のバス停まで来たら海が見えた。そして八月十五日戦争は終結した。中学三年生のはじめの夏休みの第一日目だった。

数年前、埼玉県へ出かけたとき、駅から降りて何気なく空を見上げたら真っ青な大空に雲一つなかった。『こういう日は危ないゾ』ふと瞬間思ってしまった。何故そう感じたのだろうか……

この青空を……自問自答した。そうだ戦時中、御前崎上空から富士山を目印に関東地方へ向かう米爆撃機の編隊は静岡上空を通過した。天気の良い日は上空

の敵機から地上が丸見えだから……サトウ・ハチロー作詞の『こよなく晴れた青空を、悲しと思うせつなさよ……』と似た心境だった。

今年八月、女子サッカー「なでしこジャパン」が決勝進出と聞いて当初、女相撲や女子プロレスを連想しあまり興味がなかった。が、いよいよ明朝三時から

実況放送があり相手は米国チームと聴いて眠いのを我慢して観ることにした。優勝は難しいだろうと思いつながら、女も男とも区分けのつかない姿、顔立ちを寝ぼけ目で見ていた。案の定、先取点を取られたので半ば諦めていた背丈の大きい幅のある頑丈な米国選手の足元に小粒な大和撫子が前や後ろ左右とくぐり

抜け素早く動くあの姿、……そうまた静中時代を思い出した、……住友工場の作業中、空襲警報が鳴り工場は特に狙われるとの指令で工場からやや離れた河原の木立ちへ退避した。そのうち雲一つ無い青空を富士山に向かって東北に進む敵機B-二九数十機の編隊が目に入り、指差して一斉に見入った。さらに見据えると敵機の尾翼よりも小さな黒い点が一つ、編隊の中を前後左右に鋭く動いている。そうするうちに白い煙が何回となく見えた。視覚からやや遅れて『ボン、バーン……』と音が

聞こえてくる。日本の戦闘機が一機で迎え撃っているのだ。そして皆声を大にした。真っ赤な塊が編隊から離れて落下するのが見えた。『アッ敵機撃墜ダッ』。そしてその後、小さな火の玉が静かに落ちていった。これは味方機だろうと皆推測した。航空兵は無事だったろうか。

ご存知の通り「なでしこジャパン」は米国に勝ち女子ワールドカップの優勝にかがやいた。おめでとう。中学三年の時、小鹿の河原で見たあの富士山上空での空中戦、敵の大軍の中を小さな一機で国土防衛のため命を賭けたあの光景を強く連想したのである。

生まれ来き

この世の流れに棹さして
右や左の友の顔

舳先に起きて眺むれば

あゝ、ふる里の富士山

◎原稿募集

同窓会会報は6月と12月に発行します。楽しく、役に立つ記事・原稿、事務局あてにお寄せください。

たかが同窓会、
されど同窓会③

71期 浦田 彰

お茶の心を伝える

愛 国 製 茶

代表取締役 馬場 泰男(64期)

本 社 東京都新宿区西早稲田3-7-9 TEL03-3207-1611(代表)
高田馬場店 東京都新宿区高田馬場4-11-12 TEL03-3633-6611(代表)

静高野球部82期の

小田義人氏と私

79期 上田 尚亮

小田義人氏には女房の甥の現ヤクルトの投手館山昌平の入団時にお世話になりました。館山は松坂世代の投手で日大藤沢時代は松坂のライバル？と言われていました。日大三年の時は全日本で準優勝ピッチャーでした。3年の秋4年の春と肩の故障で投げられず横浜球団から断られていました。

小田氏は静高、早稲田大、大昭和と常に4番バッター。ドラフト二位でヤクルトへ入りそして現在ヤクルトスカウト部長です。白仁天3・193、小田氏3・187で毛の差で首位打者を逃した話は有名です。

私と小田氏とは東中学、静高野球部では3年ちがい、すれ違いました。

早稲田大野球部100年の会の招待状が私のところへ来ました。野球部に関係がないのに何故かな？ 77期石山建一先輩（早稲田大11代監督）の線での

はなしかないと思ひ、出かけました。

そうそうたるメンバーの中に小田氏を見付け館山は私の女房の甥でプロの評価はどうか聞き

ました。小田氏らしくボーカルフュイスで反応はありません。ドラフトでは実質2位でヤクルトがリストアップしてくれました。

当時はケガをした選手はプロへ行けないと思われていました。球団内では議論があったようです。小田氏は館山は3年のとき良かったからと言ってくれました。スカウト業界ではその年に一人でも一軍に行けばよいと言われるぐらい選手もスカウトも大変なことです。お陰でローテーション投手になり少しは恩返しできたかなと思っています。この10月に血行障害の手術を受けます。それを乗り越えての活躍を祈っています。

小田氏とは静高と言う絆で結ばれ有り難いことです。静高万歳！

なんで私に早稲田大学100年の会の手紙が来たのか分かりません。

73期同期会

73期 山梨 由記

恒例の年一度の関東同期会を十月六日(木)に東京駅八重洲口から徒歩三分の番屋八重洲本店で午後一時より開催致しました。昨年の参加者は十九名で寂し

い限りでありましたが本年の参加者は三十名に増えて賑やかに和やかに旧交を温める事が出来ました。

同期生の元気な顔、にこやかな顔に接するところからも笑顔になり心が温まるのは、やはり静岡高校の同期生なればこそであります。ここ数年は参加者が減りつつある時、永らく逢って居なかった方から、昼間外出するのは良いが寒い夜に遅く帰ってくるのは、家人が心配で同期会であっても外出を許可してくれないとの理由で不参加なのだと言う。目が不自由で夕方や夜の外出は危険だから昼間に開催して欲しいとの希望が小生に来ていたが当番幹事は東京都神奈川県、埼玉県そして千葉県が当番幹事になった事で寒い十一月を避け、夜の懇親会を昼間に変えようと幹事六名が意見一致して開催の案内状を発送したのだった。73期生も七十三歳になり、来年も健康で元気で再会できるように約束したのだった。

お詫びと訂正

会報前号の六月五日号8頁「横浜印高会と脳卒中」の記事中、『岩崎甫氏』とあるのは「岩崎年史」の誤りでした。編集部のミスにつき、お詫びして訂正します。

編集後記

石(墓、石碑)のことなら
(株)イシフク

望月 威男 (77期)
熊野雄二郎 (84期)
望月 茂樹 (101期)
望月 秀康 (107期)

〒421-1224 静岡市葵区飯間 71
TEL 054-278-6610

関東の人に紹介したい良い環境

八王子

東京霊園

〒193-0826 東京都八王子市元八王子町
TEL 0426-61-6734

○お墓、石碑、建材、石のことなら気軽に相談ください。

鈴 与 株 式 会 社

取締役社長 鈴木与平 (76期)

〒424-8703 静岡市清水区入船町11-1
TEL 054 (354) 3015 (秘書室)
京浜支店 〒140-0013 東京都品川区南大井6-25-3
ビリーヴ大森5F
TEL 03 (6404) 2100

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役会長 岩井平一郎 (57期)

本 社 〒422-8004 静岡市駿河区国吉田3丁目1番1号
TEL 054 (262) 1111(代)
東京支社 〒104-0031 中央区京橋1-1-6 越前屋ビル8F
TEL 03 (3272) 4651 (代)

株式会社 富士越化成

代表取締役会長 野澤正憲 (64期)

〒140-0004 東京都品川区南品川2-17-11
TEL 03 (5783) 3841
FAX 03 (5783) 3755

お茶の心を伝える 愛 国 製 茶

代表取締役会長 馬場 泰男 (64期)

本 社
東京都新宿区西早稲田3-7-9 TEL 03-3207-1611(代表)
高田馬場店
東京都新宿区高田馬場4-12-7 TEL 03-3363-6611(代表)

都心のオアシス・ゴルフ練習場 (株) 公和ゴルフセンター

代表取締役社長 山中博司 (73期)

〒162-0056 東京都新宿区若松町28番5号
大江戸線・若松河田駅隣り
TEL 03-3202-6558

自動車・火災・傷害保険 (株) 大 高 保 険 事 務 所

代表取締役 清水雅尚 (77期)

〒150-0011 東京都渋谷区東3-15-8
TEL 03 (3406) 9350
携帯 090-7800-3767

同窓会で人の輪を!!

野方重人法律事務所

弁護士 野方重人 (77期)

〒101-0045 千代田区神田鍛冶町3-7-3
敷下ビル6F
(TEL) 03 (3251) 2348
(FAX) 03 (3257) 0820

昼2時より夜11時まで診療 医) 名泉会タカラ歯科診療所

代 表 ^{フ ラ シ ナ ア キ オ} 藁科名雄 (87期)

東横線 中目黒下車 徒歩5分
TEL 0120-376-480
FAX 03-3710-8847
〒153-0051 目黒区上目黒2-18-13

相続税・法人税・所得税などのご相談はどうぞ!

鳥巢修税理士事務所

税理士 鳥巢 修 (89期)

OSAMU TOSU

〒167-0041 東京都杉並区善福寺1-30-17
TEL 03(3396)3858 FAX 03(3396)3848
E-mail: tosu@mtj.biglobe.ne.jp

おくすりのこと、健康のこと、相談できる調剤薬局
全国195店舗のネットワーク

株式会社 アイセイ薬局

医療・福祉・介護で日本を笑顔に

代表取締役 岡村幸彦 (93期, 応援指導部)

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-2-2
TEL 03-3240-0222 FAX 03-6212-4193
<http://www.aisei.co.jp>